



愛隣幼稚園.....

園だより

.....19. 2月

嬉しい姿を伝えたくて

さて、3学期に入ったのも束の間、もう2月も目の前となりました。ぺんぎん組の卒業も間近に迫ってきています。毎年、この時期になると年長の子どもたちは、轟町小学校から招かれて交流会に出かけて行きます。11月にはそれぞれの就学先の小学校で、就学時健診というものが行われますが、1月に行われるものは主に小学生と幼稚園・保育園の子どもたちとの交流と、学校見学のようなものを目的として行われています。今年、轟町小学校には愛隣幼稚園と弥生幼稚園、轟保育所の子どもたちが招かれました。(なでしこ保育園も学区内にありますが、今年は年長児がいなくて伺っています。)先週木曜日、ぺんぎん組のみんなと一緒に私も小学校へ出かけました。緊張もあったかと思いますが、子どもたちはとても楽しそうな様子でした。昇降口で上履きに履き替え体育館へ。(すのこに座って履き替える子多数!「うーん、これは立ったまま履き替えられるようになった方がいいかもしれない」とこれは私の心の声)体育館には1年生が待っていてくれました。気後れするかと思いきや、そんな様子は全く見られず、「あ、〇〇ちゃんだ!」「□□くんもいるよ!」ご存知ふくろう組の仲間たちを見つけて嬉しそうです。広い体育館にワクワクしたり、高い跳び箱にびっくりしたり、後から到着した弥生幼稚園の子どもたちの制服姿を見て「みんな同じ!」と驚いたり。小学生のお話を熱心に聴き、一緒に歌った♪さんぽは「1番しかしらなーい。」と言いつつも、適当に合わせて楽しそうに歌っていました。その後は小グループに分かれ、1年生の子どもたちが年長児をつれて校内見学。教科書を見せてくれたり、ランドセルを背負わせてくれたりするのですが、これはみんな既にも買ってもらったものを背負っているためか、さほど反応がありません。(教科書とかいっぱい詰まったものを背負わせてくれたら、なかなかいい体験だったかもしれない・・・これも私の心の声)見れば机の上には木の独楽が。1月になってから挑戦しているようで、幼稚園で挑戦中のぺんぎん組の仲間たちも、当然のように独楽を貸してもらい、挑戦していました。(えっ!Kくん、やるの?君はいつもドキドキしている子だったのに。いろいろなことに挑戦してきて、それが自信になってこんな姿になるんだね。)また他に、教室や体育館に、幼稚園の子どもたちが遊べるようなゲームを、1年生が手作りして用意してくれていました。落ち葉を魚に見立てて作った魚釣りゲーム、ペットボトルにどんぐりを詰めたボーリング、秋の収穫物で作った迷路など。どれも楽しく遊ばせてもらいました。そろそろ終わりの時間が近づいた頃、小さい仲間を引き連れて1年生になったSくんがやってきました。私「楽しいゲームもいっぱい準備してくれてありがとう。」するとSくん、なぜか自慢げに「あ、愛隣幼稚園の子は、幼稚園に行けば簡単に作れちゃうけどね。」(Sくん、君はやっぱり愛隣の子だよ。よくわかってる!私もほんの少し、そんなことを感じていたよ。愛隣じゃ、もっと面白いこと考えて、みんなで作って遊んでるからね。でも、そんなことを君が感じて言葉にするなんて、思ってもみなかったよ。)さて、終わりの会となりました。進行係「今日の“ようこそ会”は楽しかったですか。お話を聞いてみましょう。お話ししてくれる人?」間髪入れず、愛隣の子どもたちの手がたくさん挙がりました。私がびっくりしました。その様子は他の園の子どもたちと明らかに違っていました。物怖じすることなく、自信をもって、幼稚園の仲間たちの中で話をする時と変わらない様子で、楽し気に手を挙げていました。指名されたHくん、少し言葉を飲み込みましたが「楽しかったです。」と大勢の人の前で話すことができました。(まさか、Hくん。君が言えるなんて!ついこの前まで、いざ人前に立つと話ができなかったよね。)嬉しい驚きでした。この後、2つの園の子どもたちのお話は、言葉数も多く立派な感じがしました。すると今度はEちゃんかNちゃんが「お話しじょうずだね。すてきだね。」と、言うのです。(もう、ほんとにそんな君たちがステキだよ!)人のいいところに気付いて、それをちゃんと「いいね。」って言えるなんて、そんなに簡単なことじゃないんだから。ひいき目と言われてしまうかもしれないのですが、この日、愛隣の子どもたちは本当に生き生きとした表情で楽しそうでした。緊張はあったと思うのですが、気持ちが解放されているのでしょうか、心もちが自由なのでしょう、子どもはこんな風でいてほしい、幼稚園の間にこんな風に育ってほしいと思う姿を、いっぱい見せてもらいました。(伝わったでしょうか・・・)